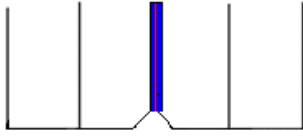


(1 1) 下の一部が欠けた。

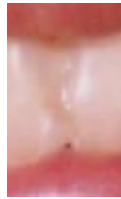
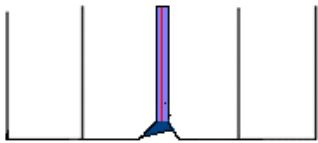


下方を薄くすると音は少し出しやすくなった。
数か月練習して唇がやっと安定した時、薄くした部分が欠けた。

結果

マウスピースに息を吹き込む抵抗が減り、吹きやすくなったが速い息が出難くなった。音色は太くなった。極端に違うマウスピースを吹いた時の何倍かの相違に近い感じであった。

(1 2) 再び詰める



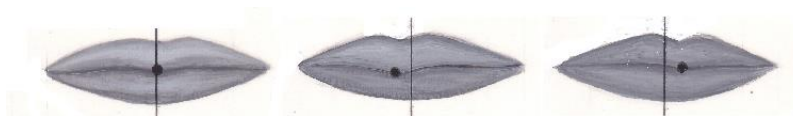
詰めなおした状態

同じ様に見えるが、形と穴の位置が前回とは微妙に違っていた。

結果

速い息は作れるが唇が対応できず、鳴り始めるのに1ヶ月位かかり、3ヶ月位で元の状態に近づいた。詰め直した状態は毎回同じように見えるが、楽器を吹くと微妙に違っていた。

歯の形により息の方向が変わるので楽器の向きも左右に変わった。



絵は極端に書いてあります。

穴の位置に唇の中央を合わせ、息の出る方向に楽器を向けると吹き易くなった。

穴の位置の合わせ方

- ① 下唇を上前歯で噛み、息を出しながら出口と方向を確認する。
- ② マウスピースをその位置と方向に合わせる。(個人により楽器は上下左右に変化する。)
- ③ 唇の左右の筋肉を使い微調整をする。

(13) 理想の形になるよう隙間全部を詰め直し、縦の溝を入れた。

結果

息の出口と方向が微妙に変わった。唇の振動場所が移動したので吹き難く、唇が元の状態のように振動するには3ヶ月以上を必要とした。

練習とは筋肉を変化させることであると実感した。

(14) 前歯を使わない食事を半年以上行った。

(欠けた下だけを補修するのを繰り返したが、唇が振動するようになった頃、隙間が欠けるので前歯の使用を止めた。)

結果

体調の変化を感じた。

食事の際に前歯を使うことは、脳を刺激し血行も促進されるように思えたので、この試みは中止し、前歯を使用するようにした。

次回は前歯に変化が起きた報告です。